

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	松くい虫被害対策自主事業(No.49)				
予算等事業名	松くい虫被害対策自主事業							
目的	松の枯死の原因となる松くい虫の被害を防止し、松の保全を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・松害木の伐倒 ・松枯れ防止剤の注入 							
根拠法令・条例等	神奈川県松くい虫被害対策事業推進計画 二宮町松くい虫被害対策自主事業地区実施計画							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		樹幹注入及び伐倒駆除は県標準単価を採用しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		適切な予算確保により事業の効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 樹齢が高い松が多数存在し、倒木対策等も課題となっている。			

総合評価

実績	松枯れ防止剤の樹幹注入を実施				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	松枯れを防止剤の注入本数				
中期(28年度)目標値	330本			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	二宮町松くい虫被害対策自主事業計画での当該年度計画値	
	330本				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,459	626				
財源内訳	一般財源	348	201				
	国庫支出金						
	県支出金	1,111	425				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 県及び町の計画に基づき実施しているため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 松の適切な保全、松くい虫の被害防除のため町が実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 事業の継続により被害防除に繋がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 国、県の補助金を活用し事業推進している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き計画に沿って松の保全等を行う。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	適切な財源確保により事業継続を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	松の保全には関係者の理解、協力が必要であるため、町が主体的に推進する必要がある。		
今後の方向性	松の保全を行うため、関係者の理解、協力を得ながら事業推進を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課	
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	防災・危機管理体制強化事業(No.62)
予算等事業名	農業施設災害復旧事業			
目的	町の防災力の向上及び危機管理体制の強化を図り、災害時における迅速な応急活動に努める。			
内容	・災害復旧(随時対応)			
根拠法令・条例等	-			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	随時対応することから、経費の削減は困難。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	随時対応することから、効率化は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】	農業被害の防止、削減のために適切な事業執行を図る。		

総合評価

実績	-			
中間評価との相違点	-			
事業指標(数値指標)	-			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	突発的な災害対応のため
	-			

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1	0				
財源内訳	一般財源	1	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き災害に備える。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き災害に備える。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	予算科目設定のため、最少額として予算計上している。		
今後の方向性	災害に備え引き続き維持する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	防災・危機管理体制強化事業(No.62)				
予算等事業名	水産施設災害復旧事業							
目的	町の防災力の向上及び危機管理体制の強化を図り、災害時における迅速な応急活動に努める。							
内容	・災害復旧(随時対応)							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		随時対応することから、経費の削減は困難。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		随時対応することから、効率化は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 水産業被害の防止、削減のために適切な事業執行を図る。			

総合評価

実績	-				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	突発的な災害対応のため	
	-				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1	0				
財源内訳	一般財源	1	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 突発的な災害対応のため。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き災害に備える。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き災害に備える。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	予算科目設定のため、最少額として予算計上している。		
今後の方向性	災害に備え引き続き維持する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	農業振興事業(No.63)				
予算等事業名	農業振興事業							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産まつり開催 ・各種の農業団体等の支援育成 ・担い手の育成 							
根拠法令・条例等	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南地域農業再生協議会規約 ・二宮町農林水産まつり実行委員会規約 ・神奈川県環境保全型農業直接対策支援事業要綱 		<ul style="list-style-type: none"> ・農業金融制度資金利子補給要綱 ・二宮町園芸協会規約 					
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		団体活動経費等補助金は概ね適正な額となっており、削減は困難と思われる。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		平成30年度に予定している農業振興地域整備計画の見直しに係る現況調査を委託により実施する等更なる効率化を図っている。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 現状概ね適正に履行されているが、補助金交付団体の活動内容等を含め更なる経費の削減及び効率化を図る。				

総合評価

実績	関係団体、協議会等に対して助成するとともに、農林水産まつりの開催により農業振興を図った。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	認定農業者数				
中期(28年度)目標値	20人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平塚・大磯・二宮の1市2町で構成される「担い手協議会」にて各市町の動向を調整しながら認定農業者数の目標を設定しており、二宮町は毎年度1名の増を目標としている	
	19人				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		6,387	5,134				
財源内訳	一般財源	1,202	1,029				
	国庫支出金						
	県支出金	4,955	3,855				
	その他	230	250				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 農業振興のため必要な支援を行う。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 農業振興のため必要な支援等を実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 新規就農の相談等、一定の成果は出ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 補助金の活用や関係機関等と連携し事業を推進している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き関係機関等と連携し事業推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	新規就農者や担い手等の育成、支援を行い農業振興に取り組む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	関係機関と連携し継続的な事業推進が必要である。		
今後の方向性	新規就農者の育成、支援を更に強化し事業推進を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	農業振興事業(No.63)				
予算等事業名	農業委員会運営経費							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	・農業委員会総会の運営							
根拠法令・条例等	農業委員会等に関する法律							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		現状、精査を繰り返して来た中での計画であるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		現状、効率化を繰り返して来た中での計画であるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			A
	【説明】 現状概ね適正に履行されているが、今後は活動内容の見直し及び効率化を図る。			

総合評価

実績	農業委員会総会を12回開催し、許可申請の審議等を行った。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	総会開催回数				
中期(28年度)目標値	12回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	年間予定開催回数を目標値とした	
	12回				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,225	3,125				
財源内訳	一般財源	2,536	2,197				
	国庫支出金						
	県支出金	607	821				
	その他	82	107				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 法定事務のため妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 法定事務のため必要である	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 農業委員会総会において適切な審議等がされている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 最小限の経費で事業推進をしている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き適切に農業委員会を運営し事業の推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	農業委員会制度が新たな制度に移行されるため、他事例等を調査、研究し円滑な運用ができるように事業を推進する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	農地の保全や適切な審議等、引き続き事業推進を図る。		
今後の方向性	農業委員と連携し、農地利用の最適化を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	農業振興事業(No.63)				
予算等事業名	農業者年金事業							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	・農業者年金への加入促進							
根拠法令・条例等	農業者年金業務委託契約							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		現状、精査を繰り返して来ている中での計画であるため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		現状、効率化を繰り返して来た中での計画であるため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						A	
	【説明】		引き続き、農業者年金への加入促進に努めて行く					

総合評価

実績	農業者年金の加入促進を行った。						
中間評価との相違点	-						
事業指標(数値指標)	新規加入者数						
中期(28年度)目標値	1人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	加入推進活動計画の目標値			
	0						

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		38	22				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	38	22				

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 委託金の歳入があるため、費用負担は発生していない。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 委託業務であるため必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 新規の加入は無かったが農業者への周知等により、制度への理解が向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 委託金の歳入があるため、費用負担は発生していない。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き制度周知に努め、加入促進を行う。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	農業委員や関係機関と連携し、引き続き事業推進を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	委託事業でもあることから引き続き事業推進を図る。		
今後の方向性	農業委員等と連携し、加入促進を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	農業振興事業 (No.63)				
予算等事業名	畜産推進事業							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産会の支援 ・家畜防疫対策の支援 ・環境整備対策の支援 							
根拠法令・条例等	二宮町畜産会規約							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		二宮町畜産会が現在財源不足となっており、削減は困難。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		適切な財源確保により、事業の効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 町の畜産家の現況に即した体制を整え、事業を進めて行く。		

総合評価

実績	害虫駆除及び畜舎環境防除薬剤の配布、家畜浄化槽及び糞処理施設の共励会、畜産共励会(乳牛品評会)、農林水産まつり酪農PR等を行った。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	経営体数				
中期(28年度)目標値	4経営体			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	高齢化や後継者不足の現状であるため現状維持を目標とした	
	4経営体				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		234	228				
財源内訳	一般財源	234	228				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 畜産振興のため防疫や環境整備等の支援が必要である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 畜産経営体の維持や畜産振興のため必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 畜舎等、適切に維持管理されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限の経費により事業推進している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き支援等を行い事業推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	二宮町畜産会と連携し畜産振興を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	畜産振興のため引き続き支援等が必要である。		
今後の方向性	二宮町畜産会等と連絡し畜産振興を推進する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	農業振興事業 (No.63)				
予算等事業名	有害鳥獣対策事業							
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣対策団体の支援育成 自主防除及び捕獲の啓発、支援 							
根拠法令・条例等	二宮町有害鳥獣対策協議会規約、二宮町農作物鳥獣被害対策補助金要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	近年農業被害が顕著だが、駆除等の数量が伸びていない。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	予算の増額等により、効果的な対策を行う必要がある。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	人材の確保や器材の購入により、事業の効率化を図る。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 農作物被害の削減のために、防除及び駆除体制の効率化を図る。		

総合評価

実績	自主防除及び捕獲の啓発、支援や関係団体の支援を行った。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	補助金申請件数				
中期(28年度)目標値	10件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	過去3年間の平均値	
	12件				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		545	361				
財源内訳	一般財源	339	211				
	国庫支出金						
	県支出金	166	110				
	その他	40	40				

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 有害鳥獣による被害拡大により農地の荒廃化につながるため支援等は必要である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 有害鳥獣による被害拡大により農地の荒廃化につながるため支援等は必要である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 自主防除の補助や捕獲等により一定の成果は出ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 二宮町有害鳥獣対策協議会及び猟友会等と更に連携し効率化を検討する。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 国補助金の活用や関係機関等と連携し事業推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	二宮町有害鳥獣対策協議会や猟友会、県等と連携し、事業の効率化を図ることで有害鳥獣対策を強化する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	有害鳥獣の被害を防除することにより、農地の荒廃地化防止にも結びつくため、引き続き事業実施する必要がある。
今後の方向性	関係機関等との連携強化や国補助金を活用する等、事業の効率化を図る。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課	
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	農業振興事業 (No.63)
予算等事業名	土地改良事業			
目的	農用地の有効利用と中核農家の育成、各種生産団体及び協議会等の支援育成、又当町の農林産物を町民に周知し農林業の振興を図る。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 農道整備・改良 (優先度の整理、施行) 農道の維持・修繕 			
根拠法令・条例等	土地改良法 神奈川県土地改良事業等補助金交付要綱			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	維持修繕が優先され、新設改良の財源確保が困難な状況となっている。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	適切な農道管理のためには財源の確保が必要。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	適切な財源確保により、事業の効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】	新規整備の事業が困難な状況だが、適切な維持管理を行いつつ、必要な整備を検討する。		

総合評価

実績	農道の護岸整備及び補修等を行った。			
中間評価との相違点	-			
事業指標(数値指標)	-			
中期(28年度)目標値	-			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	主に農道の補修等を実施しているため指標等の数値ができない
	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		7,516	6,720				
財源内訳	一般財源	5,241	4,782				
	国庫支出金						
	県支出金	2,275	1,938				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 農道等に関しては町が管理者であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 農道等に関しては町が管理者であるため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 新規整備に関しては困難であるが、優先順位を決め補修等を行っている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 適切な財源確保が必要である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 優先順位を決め計画的に適切な財源を確保し事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	大規模な整備・改良を実施するのは困難な状況だが、適切な維持管理を行いつつ、必要な整備を検討する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	農業生産の効率化や農地の荒廃化防止のため、引き続き事業推進を図る。		
今後の方向性	農道の適切な維持管理のため補助金の活用等、財源を確保し事業推進を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	遊休・荒廃農地対策事業 (No.64)				
予算等事業名	遊休・荒廃農地対策事業							
目的	農地の荒廃地化の防止と町民の余暇利用を推進する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の利用状況調査 ・遊休荒廃農地解消に係る経費の補助 							
根拠法令・条例等	農地法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		現状、精査して来た中での事業であるため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		新規就農者及び新たな担い手の就農状況を考慮した上で、実情に則した事業を検討していく。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 遊休荒廃農地を新規就農者へあっせんすることで、解消を図っていく。							

総合評価

実績	農地利用状況調査の実施や農地の貸し借り等により、荒廃化防止を行った。							
中間評価との相違点	-							
事業指標(数値指標)	遊休・荒廃農地面積の減少							
中期(28年度)目標値	0.4ha			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	農業委員会の活動計画で設定した遊休農地の解消面積目標値				
	0.37ha							

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		255	0				
財源内訳	一般財源	255	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 遊休・荒廃農地の解消のために必要な支援である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 農業委員会が業務を担っているが、必要な支援である。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 農地の貸し借り等、荒廃化防止が図られたことから一定の成果は出ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 補助制度の更なる周知により事業推進の必要がある。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 一定の成果は出ているが更に補助制度を周知し事業推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	農業委員と連携する等、新規就農者等へ更に補助制度等を周知する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	遊休荒廃農地解消のため、補助制度の周知し補助金の利用を図る。
今後の方向性	利用意向調査結果の活用等、農業委員と連携し遊休・荒廃農地対策事業を推進する。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	「農」のある暮らし推進事業(No.65)				
予算等事業名	ふれあい農園事業							
目的	農地の荒廃地化防止や里山保全を推進するため、町民の余暇利用やボランティア活動などを通じて、ふれあい農園事業や里山再生育成事業を展開する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出の実施 ・地権者主導型農園の検討 							
根拠法令・条例等	特定農地貸付法							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		地権者からの農地の賃借料が多くを占めているため、削減は困難と思われる。(利用者からの利用料により賄えている状態ではある。)						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現在、複数区画を利用をしている方がおり、キャンセルを待っている利用希望者が多くいるので、年度切替の際等に解消を図る必要があると思われる。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 利用を希望する町民が多く、また、利用することで農地の荒廃地化を防ぐことができているので、引き続き事業を推進する。							

総合評価

実績	栽培講習会の実施、全区画の貸し出しを行った。						
中間評価との相違点	-						
事業指標(数値指標)	農園利用者						
中期(28年度)目標値	全区画の利用			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	全ての区画が利用されることを目標とした			
	全区画利用						

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		232	207				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	232	207				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町民の余暇活動の充実と耕作放棄地対策のため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町民の余暇活動の充実と耕作放棄地対策のため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 農園利用者は定数を満たしている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 利用料により経費を賄っている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 農園利用の希望者が多いため引き続き事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	個人農家やNPO等の市民農園開設について、他事例等の情報収集及び検討をする。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	利用を希望する町民が多いため引き続き事業を推進する。		
今後の方向性	市民農園は個人農家やNPO等でも開設できるため、他事例等の情報収集を行い更なる町民の余暇利用や荒廃農地の解消を検討する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	「農」のある暮らし推進事業(No.65)				
予算等事業名	里山再生育成事業							
目的	農地の荒廃地化防止や里山保全を推進するため、町民の余暇利用やボランティア活動などを通じて、ふれあい農園事業や里山再生育成事業を展開する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・里山体験の実施 ・里山再生育成団体の支援育成 							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		補助金も含めた団体活動経費は十分とは言えない状況である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		活動団体の自主性を高め、事業の効率化を図る。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 外郭団体との関係の取り方等検討したうえで、里山保全の推進を図る。			

総合評価

実績	田植えや稲刈り等の里山体験や関係団体の支援育成を実施した。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	里山体験者数				
中期(28年度)目標値	150人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	過去平均値を目標値とした	
	220人				

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		253	246				
財源内訳	一般財源	223	216				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	30	30				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 里山保全の推進のため必要な事業である	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 自主性を持って取り組んでいる関係団体と連携し事業推進を図る。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 活動団体が自主性を持って取り組んでいる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 主に里山体験事業に係る経費で事業を推進している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き活動団体等と連携し事業推進を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き里山づくり推進協議会等と連携し、事業を推進する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	里山体験や関係団体の活動により、里山保全の関心が高まってきており、引き続き事業推進する必要がある。		
今後の方向性	里山づくり推進協議会と連携し、事業推進を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	水産振興事業(No.66)				
予算等事業名	水産振興事業(漁業再生事業)							
目的	二宮町の水産業の振興を図る。							
内容	・町漁業及び水産関係団体の支援育成等							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		二宮町漁業協同組合への補助金以外は各団体への負担金となっており、削減は困難である。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		各団体への負担金が主となっており、効率化は困難である。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 平成29年4月1日に大磯漁協と二宮漁協の合併が見込まれることを踏まえ、県、大磯町、関係機関との情報交換、連携を引き続き継続して行い、事業を推進する。							

総合評価

実績	関係団体等の支援、育成を行い水産振興を図った。							
中間評価との相違点	-							
事業指標(数値指標)	漁業従事者数							
中期(28年度)目標値	26人(正組合員数)			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	高齢化にともなう漁業者の減少および、後継者不足は深刻であるため、前年維持を目標とした				
	22人							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		368	368				
財源内訳	一般財源	368	368				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 水産振興のため必要な支援を行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 水産振興のため必要な支援を行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 関係機関等と連携し取り組んでいる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限の経費となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 引き続き関係機関と連携し事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	漁業者の高齢化、担い手不足の状況を鑑みつつ、継続的に事業推進を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	水産資源の安定的な確保を図るため継続的に事業推進する。		
今後の方向性	漁業者の高齢化、担い手不足の状況を鑑み、関係機関と連携し水産振興を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課		
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出	
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	漁港整備事業(No.67)	
予算等事業名	漁港整備事業				
目的	二宮町の水産業の振興を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港維持管理 ・養浜 				
根拠法令・条例等	漁港漁場整備法、海岸法、二宮町漁港管理条例				
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	漁港区域内施設の修繕など、新たに予算計上する項目があるため削減は困難。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	適切な予算確保により事業の効率化を図る。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 養浜工事の施工方法、漁港の維持管理について、県に情報提供をしてもらう等の指導を仰ぎ事業を推進していく。				

総合評価

実績	導流堤の修繕や漁港区域の維持管理、養浜工事等を行った。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	漁業従事者数				
中期(28年度)目標値	26人(正組合員数)			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	高齢化にともなう漁業者の減少および、後継者不足は深刻であるため、前年維持を目標とした	
	22人				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,895	2,337				
財源内訳	一般財源	3,837	2,279				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	58	58				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町が漁港管理者のため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町が漁港管理者のため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 養浜工事や草刈り等、必要な維持管理を行っているため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限の経費により実施しているため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 一定の成果は出ているが、漁港区域内の廃棄物処理等、計画性を持って実施する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	養浜工事や維持管理等、更に有効な事業となるよう他事例の調査を行い事業推進する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	計画的な維持管理となるように有効性や効率性について検討し、事業推進を図る。
今後の方向性	漁業者等との連携や他事例等の調査等を行い事業の推進を図る。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-4 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	特産物普及奨励事業(No.68)				
予算等事業名	特産物普及奨励事業(農業再生事業)							
目的	二宮の特産物の普及を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オリーブ及び落花生の普及奨励 ・オリーブ栽培適地の調査 ・オリーブ栽培の試験研究 ・二宮ブランド事業との連携 ・落花生の栽培普及と加工品店の販売奨励 							
根拠法令・条例等	二宮町特産物普及奨励補助金交付要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		栽培適地の調査および栽培の試験研究については概ね終了し、今後は栽培普及・販売促進に移行するため、臨時雇用員の賃金を削減できると思われる。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		平成24年度から実施しているが、まだ、各農家が自立して栽培・販売できる段階ではないので、引き続き普及・奨励を行う必要がある。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 新漬けの試験販売を行うなど少しずつ実績が上がってきていると思われる。今後さらなる普及を目指すと共に、販売方法等の研究を行う必要がある。							

総合評価

実績	オリーブ圃場の育成状況調査や落花生及びオリーブの普及奨励補助等を実施した。								
中間評価との相違点	-								
事業指標(数値指標)	落花生の町内加工店への出荷量、オリーブの栽培本数								
中期(28年度)目標値	落花生 423kg			オリーブ 2,300本			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	落花生: 過去平均値					
	落花生190kg			オリーブ: 28年度の栽培普及本数(計画値)					
	オリーブ1,474本								

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,189	632				
財源内訳	一般財源	1,189	632				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 特産物の普及、奨励を行い、地域ブランドの確立を図るため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 特産物の普及、奨励を行い、地域ブランドの確立を図るため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 オリーブ加工品が販売され始めていることから一定の成果は出ている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 普及、奨励のため必要な経費である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 普及奨励補助金の活用が減少傾向であるため、関係団体等と連携し更なる普及を図る。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後、更に普及させるため生産者や関係機関等と連携、協力し、栽培や販売、地域ブランドの確立を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町の特産物として普及奨励し、継続的な支援等が必要である。		
今後の方向性	積極的な補助金活用を奨励し栽培等の更なる普及を目指す。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	商工業振興対策事業(No.69)				
予算等事業名	商工業振興対策経費							
目的	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。また、情報の提供などを通して、事業者や町民などによる起業を支援する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 各商工業振興団体の支援育成 商店街サポーター組織の育成及び商店街の景観形成 にぎわいイベント支援 二宮ブランド事業推進の支援(イベントPR・特産品開発奨励) 							
根拠法令・条例等	二宮町商店街街路灯維持管理補助金要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		町内の商工業振興や地域の活性化に効果の薄い事業等においては見直しや削減は図れる。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		事業内容、運営方法等を見直すことにより、事業の効率化を見込める。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								B
	【説明】 目に見えるような大きな成果はないが、有効性と効率性の改善を図りながら、事業を継続的に実施していく。								

総合評価

実績	町商工会、商店連合協同組合(商連)への補助							
中間評価との相違点	—							
事業指標(数値指標)	商工会会員数+商連加盟店舗数							
中期(28年度)目標値	632(商工会531 商連101)		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】					
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	会員数の現状維持				
	633							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		13,050	12,406				
財源内訳	一般財源	12,800	12,193				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	250	213				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 商工会・商連ともに、商工業者の集積や異業種交流など、会員相互のレベルアップとスケールメリットを生かした共同活動を目的としており、町の目指す商工業振興には欠かせない団体である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 商工会・商連の育成と、一次産業や観光事業等との連携も考慮すると、町が実施(補助)すべき事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 町内中小企業の大半を占める個人店舗の減少に一定の歯止めがかかっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 商工会・商連の育成強化を進め、会員には、よりメリットのある事業を追求する必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 有効性と効率性の改善を図りつつ、継続的に実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町内中小企業の振興は、町経済の活性化、買物弱者の救済、商店街形成による地域コミュニティの造成など、様々な側面で効果があるため、商工会・商連の育成を更に進め、存在感を強めるためにも会員にとって、よりメリットのある事業を実施するよう働きかける。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	商業振興のため、引き続き推進する必要がある。		
今後の方向性	商工会、商連に国・県補助金の効果的な活用やイベントなどの見直しを促す。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	商工業振興対策事業(No.69)				
予算等事業名	起業家支援							
目的	町内中小企業の健全な育成振興を目的とし、町商工会を始め、各商店の機能が十分発揮されるよう組織の育成・強化を図る。また、情報の提供などを通して、商業者や町民などによる起業を支援する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・創業塾の開催(商工会) ・創業塾受講者のフォローアップ(商工会) ・町民への情報提供 							
根拠法令・条例等	産業競争力強化法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		事業の主体は商工会が実施している。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		事業の主体は商工会が実施している。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					B
	【説明】 次年度においては、創業支援事業計画策定の検討を行い、事業の推進を図っていく。					

総合評価

実績	創業支援事業計画策定の検討に伴い、既に計画を策定している自治体等より情報収集等を実施。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	創業塾受講者数				
中期(28年度)目標値	22			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実績値より	
	22				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	—
	【説明】 事業の主体は商工会が実施しているため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	—
	【説明】 事業の主体は商工会が実施しているため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 目標値と比較し、創業塾の受講者が受講しているため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 費用はそれほど高額ではなく、また県商工会連合会などの補助金等の活用も図られている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 商工会と連携を図りながら、今後も継続的に支援をしていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	次年度において、創業支援事業計画策定の検討を行い、事業の推進を図っていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	当事業主体は、商工会の専門性や会員情報を活かした事業を実施することが望ましい。		
今後の方向性	主体である商工会に支援・連携しながら、町商業振興に結び付ける取組みを進めていく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	中小企業支援事業(No.70)				
予算等事業名	中小企業金融対策事業							
目的	中小企業の健全な育成を図るため、指定金融機関に資金を預託し、融資制度を設け、併せて資金の利用者に対し、信用保証料及び利子の補助をする。							
内容	・制度融資の継続及び利用者への支援							
根拠法令・条例等	二宮町中小企業信用保証料補助要綱 二宮町中小企業金融対策資金利子補助要綱 二宮町中小企業金融対策資金預託要項							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		中小企業への融資に対して経費を削減することは、地域経済の衰退につながるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		現状においては、事業の運営等に支障をきたしていないため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 中小企業振興の根幹となる制度のため、引き続き事業を継続する。				

総合評価

実績	中小企業信用保証料補助 中小企業貸付金利子補助 中小企業金融対策資金預託金(町内信金・融資限度額2億円)				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	融資残高				
中期(28年度)目標値	1億4,000万円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	融資限度額の70%	
	1億3,352万円				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		12,722	11,844				
財源内訳	一般財源	2,722	1,844				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	10,000	10,000				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 利率や融資額設定の改善や金融機関と連携した制度の周知により、積極的な活用が図られている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 事業経費の大半は預託金である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 運営状況は概ね良好といえる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町融資制度や利子補助等は、中小企業の健全な発展・運営を図るための根幹的な事業であり、県や他市町の状況の把握に努め、今後も改善を重ねながら、継続的に事業を実施していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町内中小企業の健全な発展・運営を図るうえで妥当な制度である。		
今後の方向性	今後も経済状況等をふまえながら事業を継続していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	中小企業支援事業 (No.70)				
予算等事業名	男性の育児休業取得促進事業							
目的	中小企業の健全な育成を図るため、指定金融機関に資金を預託し、融資制度を設け、併せて資金の利用者に対し、信用保証料及び利子の補助をする。							
内容	・検討							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		現在は、予算は計上せずに県や関係機関等からの配布物にて啓発・周知を図っているため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		現状においては、事業の運営等に支障をきたしていないため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								A
	【説明】 県や関係機関等と連携しながら、引き続き男性の育児休業取得促進について啓発・周知を図っていく。								

総合評価

実績	男性の育児休業取得促進事業の周知・啓発の徹底								
中間評価との相違点	-								
事業指標(数値指標)	男性の育児休業取得促進事業の周知・啓発の徹底								
中期(28年度)目標値	-								【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	継続して周知・啓発を図ることが優先であるため、数値目標化はしない。					
	-								

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	—
	【説明】 県や関係機関等からの配布物を活用している。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 県や関係機関等からの配布物を町だけではなく、商工会や商連を通じて加入事業所等に配布することにより周知・啓発を図れるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 県や関係機関等からの配布物等により周知をしている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県や関係機関等からの配布物を活用している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 県や関係機関等と連携しながら、引き続き男性の育児休業取得促進について啓発・周知を図っていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	ライフスタイルの多様化により育児に積極的に関わりたいと考える若手男性が増えているため、継続して実施する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	国で掲げる一億総活躍社会実現に向けて、子育てしやすい環境づくりを目指すためには必要な事業であるため。		
今後の方向性	国・県及び関係機関等と連携しながら事業を推進していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	勤労者福祉対策事業(No.71)				
予算等事業名	勤労者福祉対策事業							
目的	町内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活の安定向上を目的とし、勤労者生活資金融資預託等を推進する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 勤労者住宅資金利子補給 勤労者生活資金融資 労働団体及び労働衛生相談への支援 							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		現状を把握しつつ、近隣市町の状況等を参考、吸収することで削減は検討できる見込みのため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		事業のうち、預託金事業が大半を占めているため、効率化は困難。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 勤労者の福祉の増進と生活の安定向上を図るため、引き続き事業を継続していく。							

総合評価

実績	勤労者住宅資金利子補助 勤労者生活資金融資預託金 労働団体等への補助							
中間評価との相違点	-							
事業指標(数値指標)	対象勤労者数(融資利用者+利子補給対象者+労働衛生相談医利用者数)							
中期(28年度)目標値	60人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実績値より				
	62人							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		21,569	21,031				
財源内訳	一般財源	1,569	1,031				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他	20,000	20,000				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、勤労者の福祉の増進及び健全な生活の安定を図るための根幹的な事業であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町融資制度や利子補助等は、勤労者の福祉の増進及び健全な生活の安定を図るための根幹的な事業であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 勤労者への生活資金融資の貸付額は減少しており、更なる周知が必要といえるが、労働団体の活動補助や労働衛生相談などを総合的に考えれば、勤労者の福祉にも寄与している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 事業経費の大半は預託金であり、町からの持ち出しは少額である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 町内勤労者の福祉の増進と生活の安定向上を目的としていることから、 継続して事業を実施していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	勤労者の福祉の増進と生活の安定向上を図るため、引き続き事業を継続していくが、補助件数の減少や今後の方針については、原因の検証や近隣自治体と情報交換するなどしていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町内の勤労者の福祉の増進と生活の安定向上を図るうえで、妥当な制度である。		
今後の方向性	今後においても制度を継続していくが、近隣自治体や経済状況等を踏まえながら、制度運営等について検討していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-3 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	勤労者福祉対策事業(No.71)				
予算等事業名	中小企業退職金共済制度補助事業							
目的	町内在住の勤労者に対する福祉の増進と生活の安定向上を目的とし、勤労者生活資金融資預託等を推進する。							
内容	・中小企業退職金共済制度加入の奨励支援							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		平成25年及び27年に補助率、補助期間の改正を実施したため、その状況を見ていく必要があるため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		現状においては、事業の運営等に支障をきたしていないため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						A	
	【説明】 町内の中小企業振興と従業員の福祉向上と雇用安定化を図るうえで引き続き事業を継続していく。							

総合評価

実績	中小企業退職金共済制度補助					
中間評価との相違点	-					
事業指標(数値指標)	中退共加入者数					
中期(28年度)目標値	111人			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	実績値より		
	111人					

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		956	492				
財源内訳	一般財源	956	492				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉の向上と雇用の安定化を図ることを目的としているため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉の向上と雇用の安定化を図ることを目的としているため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 中退共制度への加入促進につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 平成25年1月の制度改正以降、適正な補助率となっている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上と雇用の安定につながるため、継続的に実施する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	町内の中小企業が雇用する従業員の福祉向上と雇用の安定につながるため、引き続き事業を継続していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	中小企業の雇用の安定化を図るため必要である。		
今後の方向性	今後においても制度を継続していくが、近隣自治体の状況等を踏まえながら、制度内容等について検討していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課					
基本構想	環境と風景が息づくまちづくり		重点的方針	2-1 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり				
分野別方針	産業・経済		実施計画事業	観光まちづくり推進事業(No.72)				
予算等事業名	観光振興対策事業							
目的	町の観光振興を目的とし、観光客の来訪促進を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の育成支援 ・観光協会組織・運営の検討と変更 ・観光パンフレット印刷 							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	自主財源確保やイベント事業、法人化などについては、理事会等での再度の議論を経て、慎重に方向性を定めていく必要がある。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	事業内容、運営方法等を見直すことにより、経費削減等は見込める。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	事業内容、運営方法等を見直すことにより、事業の効率化を見込める。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					B
	【説明】 観光協会の組織体制や運営方法や支援など目指すべき方向性について、理事会等で再度議論や検討していく。					

総合評価

実績	観光協会への補助及び育成 観光事業の開催(観光フォトコンテスト、ふるさとまつり、菜の花ウォッチング等) 観光パンフレットの印刷				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	観光客数				
中期(28年度)目標値	55万人		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	直近5年間で最大の観光客数(平成27年1~12月) 実績値は年単位(1~12月)で計上	
	56万人				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		9,080	8,993				
財源内訳	一般財源	9,080	8,993				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 当事業は、観光誘客による町経済の活性化を目的としており、公費の投入は妥当と考える。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 事業主体となるべき観光協会の育成と、一次産業や二宮ブランド事業等との連携も考慮すると、町が実施すべき事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 テレビや新聞などメディア露出機会も増え、二宮町の知名度は向上している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 観光協会の自主財源率の向上と効果の高い事業への選択と集中が必要。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 観光協会の育成と自主財源率の向上、事業の選択と集中を図りながら、今後も継続的に事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	観光事業の有効性・効率性の向上を図りつつ、観光誘客を産業分野に結び付けていく取り組みを進める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	観光振興のため、引き続き推進する必要がある。		
今後の方向性	観光協会の組織の検討を行うほか、自主財源の確保を推進する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 産業振興課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	公有財産管理運営事業	
予算等事業名	観光施設維持管理事業				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	・観光トイレ管理・運営				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		他施設との一元管理が進めば、削減等が見込める。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		他施設との一元管理が進めば、効率化が図れる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 他施設との一元管理を含め、管理等の効率化を検討する。				

総合評価

実績	観光トイレ2箇所の維持管理。				
中間評価との相違点	—				
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(28年度)目標値	1,091千円			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	経費の減少(目標値は28年度予算額)	
	1,011千円				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,091	1,011				
財源内訳	一般財源	1,091	1,011				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 観光客だけでなく、町民の利便を図る施設であるため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 観光客だけでなく、町民の利便を図る施設であるため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 観光資源として位置付けた場所で、多くの利用者がいるなかで、快適に利用できているため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 繁忙期・閑散期など、管理にメリハリを付け、管理費用の圧縮を図っているため。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 観光客だけでなく、町民の利便を図る施設であるため、継続的に管理していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	観光施設ではあるが、町民の利便性も考えると、他の公共施設との一元管理を図ったほうが効率的と考える。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	観光施設にはおいてトイレは必要なものであり、今後においても維持管理をしていく。		
今後の方向性	適正な維持管理を行っていく。		